

教育活動

令和元年度統合環境学特別コース修了証授与式/臨床環境学研修はオンラインで実施

令和元年度統合環境学特別コース修了証授与式が3月25日に開催されました。令和元年度に統合環境学特別コースを修了した環境学研究科の大学院生4名のうち、鄭緑芸さん（地球環境科学専攻）とDALIMUNTHE Syarifahさん（都市環境学専攻）が式に出席し、西澤研究科長より修了証を受け取りました。

当日は、マスク着用など新型コロナウイルス対策を講じ、最小限の人数での修了式となりましたが、教員一同、みなさんのコース修了を喜び、今後の活躍を期待しています。

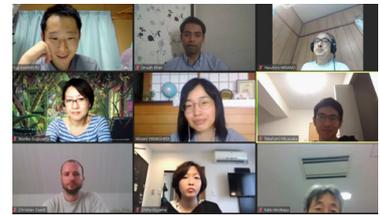
統合環境学特別コースの講義の一つである「臨床環境学研修（ORT：On-site Research Training）*」が今年度も始まりました。今年度は、3名の学生（うち留学生2名）とORTをオンラインで実施しています。

対象地は、昨年に引き続き長野県木曾町で実施しており、第一回は名古屋大学教員より昨年度の現地実習の説明や木曾町の概要を説明しました。第二回は木曾町役場の方などにご参加いただき、木曾町の魅力や木曾町が抱える課題について意見交換を行いました。これらの情報共有や課題整理を受けて、学生間で話し合い、研修で取り組むテーマを検討してきます。

*地域の持続可能性に関わる問題を学生が自主的に見つけ、現地の現状把握（＝診断）と解決方法の提案（＝処方）を行う実習です。



最小限の人数での修了式



オンライン講義の様子

「統合環境学特別コース」の詳細は、こちらのウェブサイトをご覧ください。

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/>



ニュース

中間市、岡山市、小布施町が「世界首長誓約/日本」に署名

「世界首長誓約/日本」に新たに中間市（福岡県）、岡山市（岡山県）、小布施町（長野県）が署名し、国内の署名自治体は25になりました。

中間市の福田健次市長は、6月17日の署名式で「循環型環境システムを本気で考える街にしたい。環境問題、コロナ危機を経験し、私たち人間は、子どもたちと生きもの全てに対して何をすべきか自覚しなくてはならない。この署名で、一歩踏み出したい。」と述べました。

岡山市の大森雅夫市長は、7月29日の署名式で「『世界首長誓約/日本』の誓約内容は、地球温暖化だけではなくSDGsに取り組むうえでも重要なもの。1つ1つの取り組みを具体的に実行していく。設計中の新庁舎の使用電力は全て再生可能エネルギーで賄いたい。」と述べました。

小布施町の署名式は、8月20日、コロナウィルスの感染拡大を避けるため、初めてオンラインで開催しました。小布施町の市村良三町長は、「昨年、台風19号の大きな被害を受けた。私たちには、気候変動の影響を最小限に抑えながら、次世代に住みやすい町を残していく責任がある。」と述べ、小布施町が環境、防災、次世代型のインフラを構築していくため、総合政策推進室を新たに立ち上げたことを発表しました。

「世界首長誓約/日本」事務局では、リーフレット第2弾を作成し、5月に全国の地方自治体の首長宛にお届けしました。コロナ禍にもかかわらず、メールや電話で多くの問い合わせをいただき、今後もいくつかの自治体の署名が予定されています。気候変動への地域からの挑戦に、新たに加わる自治体をお待ちしています。

「世界首長誓約/日本」誓約自治体

2020年8月現在、25自治体



中間市



岡山市



小布施町

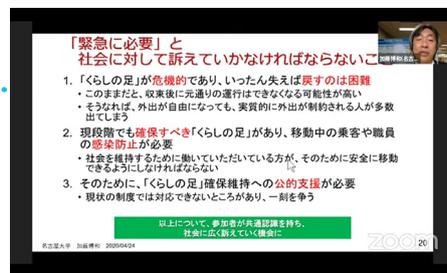
「世界首長誓約/日本」の詳細は、こちらのウェブサイトをご覧ください。

<https://covenantofmayors-japan.jp/>



「新型コロナウイルスによる交通崩壊を防げ！」 緊急フォーラム開催、そして特設サイト設置に参画

新型コロナウイルス感染拡大は、基本的なインフラである地域公共交通に甚大な打撃を与えています。外出自粛によって利用が急減する一方、減便ができず補償も受けられず、事業者の経営が逼迫されています。共発展センターでは加藤博和教授を中心に公共交通の立て直しに全国の現場で取り組み、2018年に発足した「公共交通マーケティング研究会」の事務局として、また2012年より毎年秋に開催している「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」の後援者として運営に協力してきました。今般の公共交通崩壊の危機を世に訴え対応を呼びかけるため、両組織を運営の中心とする「くらしの足をなくさない!緊急フォーラム」が、4月24日(金)と5月29日(金)の2度に渡りオンラインにて開催されました。それぞれ約1000人、820人が参加登録し、5月には赤羽国土交通大臣も出演、多くのマスコミが報道するなど、社会に大きくアピールするフォーラムとなりました。録画や資料はネット配信されています。またフォーラムをきっかけに、6月には特設サイト「新型コロナウイルスによる交通崩壊を防げ!」が開設され、運営に協力しています。コロナ禍は人間社会の持続性への脅威であり、当センターの重要課題と認識し、今後も取り組んでまいります。



「新型コロナウイルスによる交通崩壊を防げ!」の詳細は、こちらのウェブサイトをご覧ください。

<https://covid19transit.jp/>



イベント

【報告】伝統野菜についての国際ウェビナーセッション

~アジアにおける遺伝資源と関連する伝統的知識の活用と保全のための「東アジア・共感モデル」の構築~

2020年7月8日(水)に伝統野菜についての国際ウェビナーセッションを開催しました。本ウェビナーは、トヨタ財団国際助成プログラムの助成*の一環として開催し、中国、韓国、マレーシアから研究者による発表が行われ、沖縄より高校生が島やさいについて英語で発表しました。各研究の発表と合わせて、トヨタ財団の関連プログラムとも交流を行いました。

発表者・視聴者併せて約60名が参加、質疑応答・議論も活発に行われ、活気に満ちたウェビナーとなりました。

*香坂玲「日中韓における遺伝資源と関連する伝統的知識の活用と保全のための「東アジア・共感モデル」の構築—伝統野菜と養蜂を題材として」(2017年度国際助成プログラム、プログラム・テーマ:新しい文化の創造:これからのアジアの共通基盤の構築)

発表内容等以下のように進行了しました。

◎ソウル国立大学 Misun Park 准教授

演題: Traditional knowledge and wild simulated ginseng

◎静岡大学 富田 涼都 准教授

演題: How can we maintain "Richness" of agriculture? : Focusing on utilization and protection of heirloom crops in Shizuoka

◎マレーシア国民大学 Eric Olmedo 主任研究員

演題: ULAM: Nutritious and healing plants from the Malay Archipelago

◎中国人民大学 Jinlong Liu 教授

演題: Wild vegetables in Guizhou province

コメント 名古屋大学大学院 環境学研究所 内山 愉太 特任講師

◎名古屋大学大学院 環境学研究所 香坂 玲 教授、内山 愉太 特任講師、

三宅 良尚 研究員、岐阜大学 堀江 未央 助教、おきなわ教育ラボ 神部 愛氏

演題: Learning from traditional vegetables in Japan

※宜野座高校生徒3名による発表 "The hidden power of Okinawa's unique island vegetables" を含む。

◎岐阜大学 堀江 未央 助教

演題: Recipes of Yunnan Mushrooms

コメント 名古屋大学大学院 環境学研究所 三宅 良尚 研究員

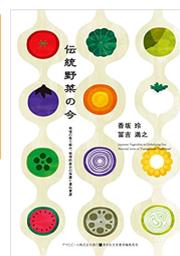


ウェビナーの様子



参加者の皆さんと交流

関連図書



伝統野菜の今

地域の取り組み、
地理的表示の保護と
遺伝資源

香坂 玲, 富吉 満之 著
2015年



詳細はこちらのリンクをご覧ください。

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=05_87950619/

ウェビナーの様子は以下でYouTube動画として視聴できます。

https://youtu.be/e_VZH-M0sk



編集
後記

名大共発展センター・ニュースレター第22・23号をお届けします。2020年6月1日は臨時休刊とさせていただきます。本号では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が広がる中で、当センターのORT実施報告およびイベントの情報をお伝えいたします。本号ではイベントの報告となりましたが、これからは様々なイベントの告知も増やしていきたいと思っております。気に入ったオンラインのイベントを見つけて、議論に参加してみたいかでしょうか?これからも共発展センターの活動を引き続きご支援頂きますようお願いいたします。

名古屋大学



大学院環境学研究所附属
持続的共発展教育研究センター

共発展センター・ニュースレター 編集部

名古屋大学大学院環境学研究所附属持続的共発展教育研究センター 事務局

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学環境総合館421号室

電話/FAX: 052-747-6547

E-mail: cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp